



観る将の大盤解説会デビュー ～第50期 棋王戦第3局 大盤解説会観戦記～

県立加茂病院

幡 谷 功

藤井聡太7冠の活躍により、羽生善治9段以来の将棋ブームになっている。ここ数年では将棋対局がABEMA将棋チャンネルや各新聞社のYouTubeなどで生中継されるようになった。画面には形勢判断がパーセンテージで表示され、次の一手による形勢の変化が容易にわかるため、将棋に詳しくなくても勝負の行方を楽しむことができる。これが将棋を指さないが将棋観戦をする、いわゆる〈観る将〉が増えている一因でもあり、私もその一人である。しかし、地方に住んでいると本物の棋士を実際に見る機会はほとんどない。タイトル戦では観客に挨拶に来ることがあり、いつか機会があれば行きたいと思っていた。今回新潟で棋王戦が行われるので、藤井7冠を見るために大盤解説会に初めて参加した。

2025年3月2日新潟市で開催された第50期棋王戦第3局、新潟グランドホテルが会場の大盤解説会に夫婦で参加した。大盤解説会は午後1時より始まり、解説は飯島栄治8段、聞き手は武富礼衣女流初段。二人の軽快なトークで会場は活気にあふれた。周囲を見渡すと中高年男性がほとんどだろうと想像していたが、意外にも御夫婦で来られた方、将棋好きの子供を連れのお母さん方などの女性客も多く、将棋人口のすそ野の広さを感じた。途中、幾度かの休憩をはさみながら、大盤解説会は続いた。

解説陣がせっかく新潟に来たので、昼にバスセンターのカレーとイタリアンを食べてきたという話をしていたので、午後2時から3時までの長めの休憩を利用し、昼ご飯を食べていなかった私たちも久しぶりに黄色く辛いカレーを食べに行くこ

とにした。天気にも恵まれたので、万代バスセンターからグランドホテルまでの散歩は、普通盛でも十分満腹となるバスセンターのカレーの腹ごなしにちょうど良かった。会場にもどってしばらくした午後3時半ごろ大盤解説会では次の一手クイズが行われた。通常は3～4択なのだが、本局は千日手模様であったため、千日手になるかならないかの2択で行われた。夫婦で2票あるのでそれぞれに一票ずつ投票することができた。午前9時に藤井棋王の先手で始まった対局は午後4時過ぎに千日手が成立し指し直しとなった。解説の飯島8段はこれまで自分がやってきた大盤解説会では初めてだと話していた。投票休憩明けの会場では早速抽選会が行われ、千日手となるに投票した箱から、記念品が当たる抽選が行われた。記念品は参加棋士の揮毫、直筆サインの入った新潟日報社の〈棋王戦50期記念 にいがた将棋物語〉などであり藤井棋王の揮毫本も含まれていた。大盤会場には満員の320人が集まっていたのだが抽選が当たるのは20人程度である。当たるか当たらぬかたずをのんで抽選を見つめていたのだが、なんと私には飯島8段の揮毫本が当たり、本人から直々の手渡しで本をいただいた。めずらしく狭き門を運よく突破したのだった。

指し直し局は先手後手を変えて午後4時31分再開された。終局時刻が遅くなることが懸念されたが、会場司会者より大盤解説会会場は午後8時までであること、それ以前に終局しても棋士の体調を考慮して会場に来ない可能性もあることがアナウンスされた。直接藤井棋王を見ることはできないと残念であったが、指し直し局も二人の解説

が面白くて飽きなく、夕食の空腹を感じないほどであった。帰宅時間の都合があるのか早めに会場を去る方々もいたが、ほとんどの観客は残って大型モニターに映る盤面を見つめ、解説陣の話に聞き入っていた。局面は中盤にさしかかり佳境に入っていたのだが、残念ながら午後8時で解説会は終了し、集まった人々は三々五々帰路についたのだった。結局残念ながら、藤井棋王を実際に見ることはできなかったが、大盤解説に来る人たちの人間観察ができ、また、期せずして抽選に当たり揮毫本を手に入れることができたので満足 of ゆく一日であった。好手が続いた指し直し局は徐々

に藤井棋王に形勢が傾き、終局の午後8時55分をもって、本局、指し直し局合わせて実質2局を戦った棋王戦第3局は、12時間に及ぶ激闘の末に藤井棋王勝利で幕を閉じた。さらに本局の勝利で藤井棋王は棋王戦5番勝負を3連勝し、棋王戦の防衛と3連覇が達成された。

家に帰ってABEMA将棋チャンネルで結果を知った後は、さらに楽しくお酒が飲めたのであった。巨人が勝ったら酒がおいしい昔のお父さん達のように。

(加茂市医師会報 令和7年6月号より)



写真1 抽選で当たった新潟日報社の〈棋王戦50期記念 にいがた将棋物語〉

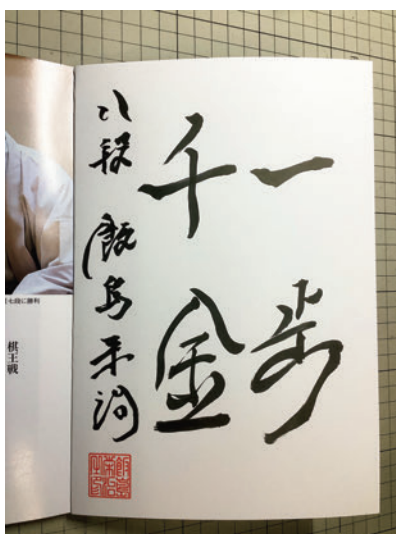


写真2 見開きに書かれた飯島栄治8段の揮毫



写真3 家内と会場の様子の記念撮影